

平成31年3月27日
松江市原子力安全対策課

1. 訓練実施日

平成30年10月26日（金）・30日（火）

※事故の拡大に伴い発電所に近い区域から**段階的に避難**することを理解いただくため2日間に設定

2. 主に実施した訓練

○災害対策本部設置運営訓練

✓ 訓練の概要

- 鹿島町で震度6強を観測する地震が発生し、その後、島根原子力発電所で事故が発生したとする**複合災害を想定した訓練**を実施。
- 強い地震を観測した鹿島町を中心に多数の被害が生じているなどの想定のもと、市災害対策本部会議において対応方針を検討する訓練を実施。
- また、鹿島・島根支所においても、支所災害対策本部会議において複合災害時に取るべき対応方針を検討する訓練を実施。

✓ 訓練の成果・課題

- 市災害対策本部会議では、不測の事態へ優先的に対応できるよう、災害対応の状況を整理し、漏れを防止するためのチェックシート等の仕組みが必要であることが課題となった。



市災害対策本部会議の様子

2. 主に実施した訓練（前頁からの続き）

○ P A Z の防護措置等訓練

✓ 訓練の概要

- 松江市消防団と島根県警察が協力し、避難を行う際に支援を必要とする方（避難行動要支援者）の避難を支援し、車両により搬送する訓練を実施。
- 全面緊急事態により、P A Z（発電所からおおむね5 km圏内）に避難指示が出されたとの想定のもと、鹿島町御津・片句地区、島根町大芦地区の参加住民を対象に、一時集結所への集合、バスによる模擬避難訓練を実施。
- 地震による倒木により道路が寸断されたと想定し、自衛隊による道路上の障害物を撤去する訓練を実施。
- 鹿島文化ホールにおいて、災害への備え、避難所の運営等に関する講演会を開催。

✓ 訓練の成果・課題

- 参加した住民からは、複合災害に関する理解が深まった旨のご感想を多数いただいた。

（参考）住民参加者数

鹿島町御津地区 2 5 名、片句地区 2 5 名、島根町大芦地区 3 4 名



消防団員と警察官が協力して要支援者を搬送



道路上の倒木を自衛隊が重機を使用し撤去

2. 主に実施した訓練（前頁からの続き）

○UPZ住民の広域避難訓練

✓ 訓練の概要

- 26日の事故発生後、発電所外に大量の放射性物質が放出され、30日にUPZ（発電所からおおむね5km～30km圏内）のうち、竹矢地区及び忌部地区に避難指示が出されたとの想定で訓練を開始。
- 本市原子力防災訓練では初となる県外への広域避難訓練を実施。
- 定められた避難経路を通り、竹矢地区は岡山県笠岡市へ、忌部地区は広島県神石高原町へ、バスにより避難。
- 忌部地区では、忌部小学校の5・6年生児童も参加し、バスの車内では、放射線が体に与える影響や、発電所で事故が起こったときの対応などについて学習。
- 避難の目的地となる避難経由所、避難所では、避難先自治体の職員が、避難者受け入れマニュアル(案)に従って受け入れ手順を確認。

（参考）住民参加者数

竹矢地区69名、忌部地区59名（忌部小学校児童を含む。）



避難経由所運営訓練（神石高原町）



避難所運営訓練（笠岡市）

【次頁へ続く】

2. 主に実施した訓練（前頁からの続き）

○UPZ住民の広域避難訓練

✓ 訓練の概要

- 避難所に到着後、住民と避難先自治体職員の間で、避難所の自主的な運営について話し合う訓練を実施。
- 笠岡市、神石高原町から、両市町の特色や名所などを紹介いただき、避難先自治体に対する理解を深めた。

✓ 訓練の成果・課題

- 避難者受け入れマニュアル（案）に基づき訓練を行い、マニュアルの実効性を確認することができた。
- 県外への広域避難訓練ということもあり、避難経路に不安を持たれた方もいたため、日頃から避難元と避難先との交流を行い、避難先への理解を深めていくことが重要であることを認識した。
- 移動途中に児童が体調不良を訴えたり、バスが道を間違えたりしたので、トラブルが起きた際の対応が訓練運営上の課題となった。



避難所運営に関する協議（神石高原町）



笠岡市の紹介

3. 今後の計画

- いただいたご意見や、訓練で得られた成果・課題などを踏まえ、広域避難計画や避難者受け入れマニュアルの実効性向上、広域避難計画パンフレットの修正、来年度の訓練内容への反映などを予定。